

論文内容の要約

| | |
|---|--|
| 論文名 | Application of a New Parameter in the 6-minute Walk Test for Manifold Analysis of Exercise Capacity in Patients with COPD COPD 患者に対する 6 分間歩行試験において、運動能力を多面的に分析するための新しい指標の有用性の検討 |
| 氏名 | 井尻 尚樹 |
| <p>【目的】 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の身体活動性評価において、6 分間歩行試験から得られる新しい指標 (desaturation distance ratio: DDR) の有用性についての検討。</p> <p>【対象】 当院通院中の外来患者 41 人を対象とし検討した。悪性腫瘍・心血管障害・最近の手術歴、4 週間以内の COPD の急性増悪のある患者は除外した。</p> <p>【方法】 全被験者に対して身体検査、呼吸機能検査、6 分間歩行試験を施行。DDR は 100% から 6 分間歩行試験時の 1 分毎の SpO₂ (%) を引いた値をそれぞれ足し合わせて求められた Desaturation area (DA) を用いて、DA/6 分間歩行距離で計算された。</p> <p>【結果】 6 分間歩行距離および DDR は両者とも呼吸機能 (1 秒率 (%), 予測 1 秒量 (%), 拡散能 (%)) と有意な相関を示した。さらに DDR は、ΔSpO₂ (6 分後の SpO₂ (%) - 安静時の SpO₂ (%)) および ΔBorg (6 分後の Borg scale - 安静時の Borg scale) とも有意な相関を示した。</p> <p>【結論】 DDR は 6 分間歩行距離と同様、呼吸機能との相関を認めた。さらに DDR は労作時の呼吸困難感および酸素飽和度の低下とも相関を示した。このことから DDR は、COPD 患者の身体活動性を包括的に評価できる指標になりうる可能性が示唆された。</p> | |